

第3章 基本的な視点

1 基本理念

ともにあゆむ自立支援社会をめざして

障がいのある人が社会の一員として、他の人と同等に生活し活動する社会をめざす「ノーマライゼーション」の考え方が、広く市民に浸透し定着することを基本に置き、障がいのある人一人ひとりが決して社会的に孤立することなく、人間（ひと）と人間（ひと）との関係性、社会とのつながりの中で、ともに自らの固有の役割を高めていけるよう、「ともにあゆむ自立支援社会」の構築をめざして、すべての障がいのある人の地域での自立と社会参加の実現をめざします。

あ

●安全・安心な、ゆくもいあふれる、人にやさしい福祉のまちづくり

ま

●待つ相談から身近に寄り添い、手を差し伸べる多様な取組みの推進

2 地域で育む自立支援社会の実現に向けた4つの施策目標

「自立」とは、一人ひとりが、生きがいと誇りを持って、自らの意思と責任によって、自分らしい生き方や幸せを追求することです。

すべての障がいのある人が、地域社会において、こうした意味で自立した暮らしを実現し、就労や文化活動など、様々な社会活動に参加することを一層進めるためには、地域社会における支援によって必要な条件を整備していくことが必要です。

個々の暮らしは、障がいの有無にかかわらず、日常の生活基盤である住まいと、社会的な役割を担う活動や参加の場、そして余暇活動などの場が重要な要素です。

こうした点を重視し、障がいのある人を取り巻く状況、障害福祉サービス（自立支援給付）及び地域生活支援事業の利用状況の検証ならびにアンケート調査結果及びヒアリング調査結果から見えてきた課題を踏まえ、今後の障がい福祉施策として取り組むべき4つの施策目標を設定しました。

施策目標1 日常の自立した暮らしを応援する

個々の暮らしや生き方に即したケアマネジメントによる障がいのある人の立場に立った相談支援体制の充実と自己選択・自己決定に基づくサービスの提供に努めるとともに、地域生活の基盤となる多様な住まいの確保を図ります。

施策目標2 日中活動の場の充実と就労を促進する

ライフステージに即した日中の多様な活動の場の充実を図るとともに、より豊かな自己実現に向けた就労支援を推進します。

施策目標3 重層的な支援による社会参加を推進する

個々の障がいの特性に配慮したコミュニケーション支援、移動・外出支援の充実を図るとともに、社会参加に向けた環境の整備を図ります。

施策目標4 地域で育む福祉の推進を確かなものにする

お互いの個性や多様性を尊重し、人権尊重に根ざした市民協働によるまちづくりを推進します。

3 施策の体系

4つの「施策目標」に沿った13項目の「施策の方向」を明らかにするとともに、各目標の実現に向けた「具体的な取組み」を体系化しました。

《施策体系図》



